

ふるさと文化伝承館「南アルプスの子宝伝説」展

● 期間:9月25日まで(木曜休館)
● 時間:9:30~16:30
● 会場:ふるさと文化伝承館
(Tel:055-282-7408)



もっとくわしく
知りたい方は
ふるさと文化伝承館へ!

南アルプスの子宝伝説②

長谷寺の子宝伝説

前回に引き続き、南アルプス市に伝わる子宝にまつわるエピソードをご紹介します。

今回は八田地区にある古寺、長谷寺の風習です。

八田山長谷寺

真言宗智山派の古寺。

本尊は「原七郷の守り観音」として古くからあつく信仰される十一面観音(山梨県指定文化財)。

原七郷(上八田・西野・在家塚・上今諏訪・吉田・小笠原・桃園)は御勅使川扇状地の扇中部にあたるため常習干ばつ地帯といえ、長谷寺は古くから雨乞いが行われてきた古寺でもあります。

現在の本堂は大永四年(一五二四)に建立されたもので国の重要文化財に指定されており、南アルプス市内では建立年代が判明しているものの中で最も古い木造建築物です。

千体仏

長谷寺には千体仏の風習がのこります。

本堂の奥には雑壇があり、そこに並べて安置されています。

子宝を望む女性が一体を持ち帰り自宅などでまつることによって願いが叶うというもので、叶えられた時には拝借した一体にさらにもう一体を加えて合計二体をお返しし、お礼参りをするという風習です。

詳細は不明ながらも江戸時代に遡るとされ、時の住職が地域の繁栄を願い置いたものと伝えられています。それ以来現在まで続くのです。

現在でも県内のみならず神奈川県や千葉県など県外からも訪れています。

現在では、一般の方が仏像を作って奉納することとは難しいため、こけしなどをお返しするそうです。写真でもわかりますが、中にはリカちゃん人形などもあります。時代を超えて信仰が続いている様子が伺えます。

